

# 経営は回転率と利益率

Q. 経営のよし悪しを知るのに経営分析をしたいと思えます。何かはじめたらよいでしょうか。

A. いくら会社で資本を投下したか、その結果どれだけ利益が得られたか、つまり経営活動によりどれだけ儲かったか、を知る経営分析指標として「総資本利益率」があります。これは経営分析指標の中で大変重要な指標です。

## 総資本利益率とは

総資本利益率は次の計算式で求められます。

総資本利益率  $\parallel$  利益  $\div$  総資本

これはさらに次のように分解できます。

総資本利益率

$\parallel$  (売上高  $\div$  総資本)  $\times$  (利益  $\div$  売上高)

## 総資本回転率を高める

(売上高  $\div$  総資本) は総資本回転率といえます。投下した資本が売上として何回収されたかを示す比率です。高ければ高いほど資本が効率よく活用されていることになります。分子の総資本が低いほど比率は高まります。つまり資本効率を高めるためには遊休資産や不良在庫の処分、貸付金の整理等、無駄な資産を減少させ、総資本額を圧縮することがポイントです。よって貸借対照表の内容をしっかりとチェックしましょう。

## 売上高利益率を上げる

(利益  $\div$  売上高) は売上高利益率といえます。いくら売上高があっても赤字になっては意味がありません。利益を増やすためには変動費率の低下、固定費の削減等の諸経費の見直し、削減を図りましょ

う。ここでは損益計算書により利益が創出されるプロセスにおける諸経費を厳しく見直す必要があります。

## 経営は回転率 $\times$ 利益率だ

このように総資本利益率を高める、すなわち儲かる体質にするには、資本の回転率と利益率を高めることが重要なのです。どちらも上げられれば一番よいのですが、業種業態によつてそれぞれ押さえるポイントが異なります。

例えば、温泉旅館業は温泉風呂や宿泊部屋、宴会場等多くの施設  $\parallel$  資本が必要になる装置産業です。そのためなかなか資本の回転率が高まりません。しかし利益率は高くなっています。このような仕組みであるにも関わらず、業者間の競争激化から安易に安売りの競争に突入したらどうなるか、もうおわかりですね。

一方、小売店等は装置産業に比べそう多くの資本を必要としないので、資本回転率は高くなります。しかし利益率は低めになっています。低価格路線の場合、利益率はどんどん下落していきます。それをカバーするために資本の回転率を上げていかなければなりません。借入に頼り必要以上の華美な店舗等を構えている場合、過大設備投資が足を引く張るケースが多く見られます。

自社の業績に不安がある場合には、まずこの総資本利益率を計算し、同業他社や過去の指標と比較し経営改善のヒントを得、実践することが大切です。

(増山英和税理士)